

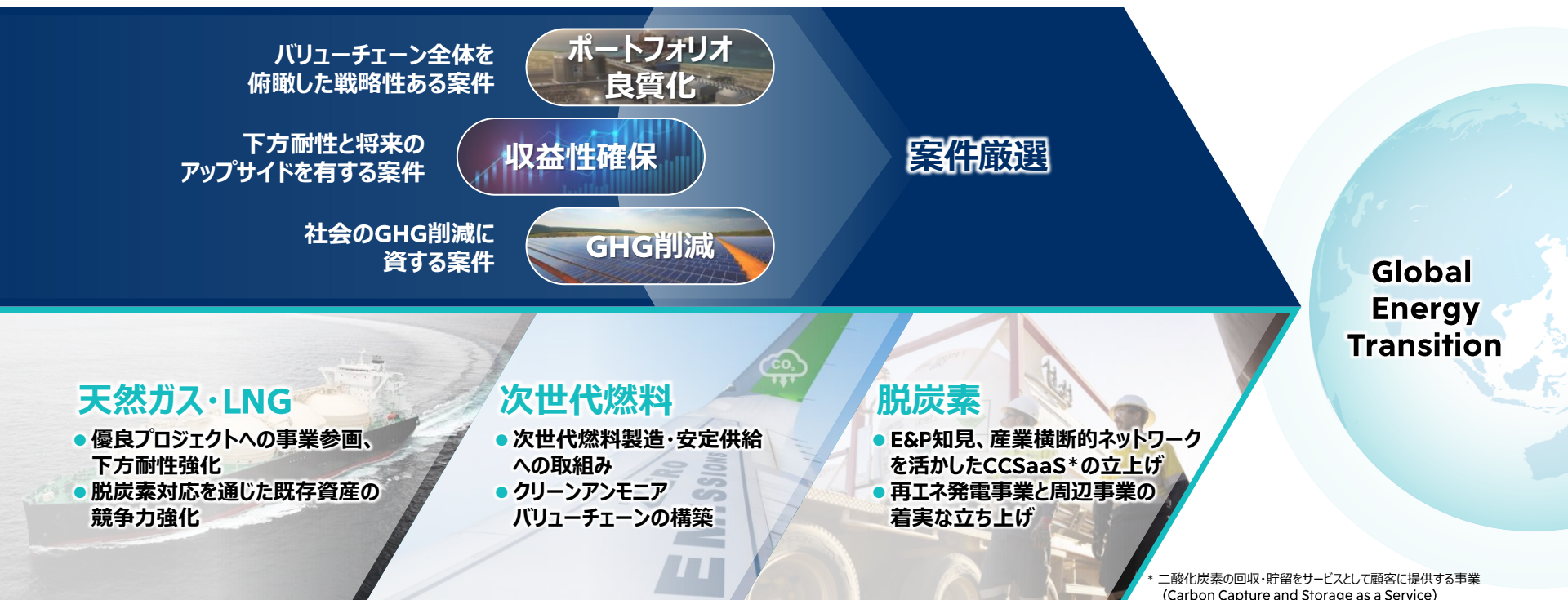
Global Energy Transition

代表取締役専務執行役員
松井 透



Global Energy Transitionの取組方針

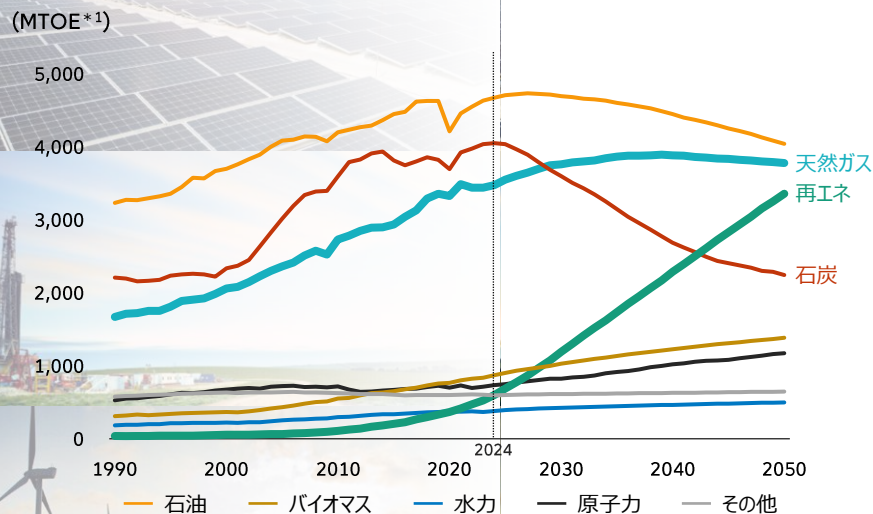
◆ 気候変動シナリオ、エネルギー需要の振幅に対応可能な、複数シナリオに備えるポートフォリオを構築



Energy TransitionにおけるLNGの位置付け

- ◆ 世界の一次エネルギーは再エネ及び天然ガスが当面伸長する見通し
- ◆ 天然ガス・LNGは生成AI普及に伴う電力需要増加にも対応する安定電源燃料としての重要性を再認識

【一次エネルギー消費見通し】



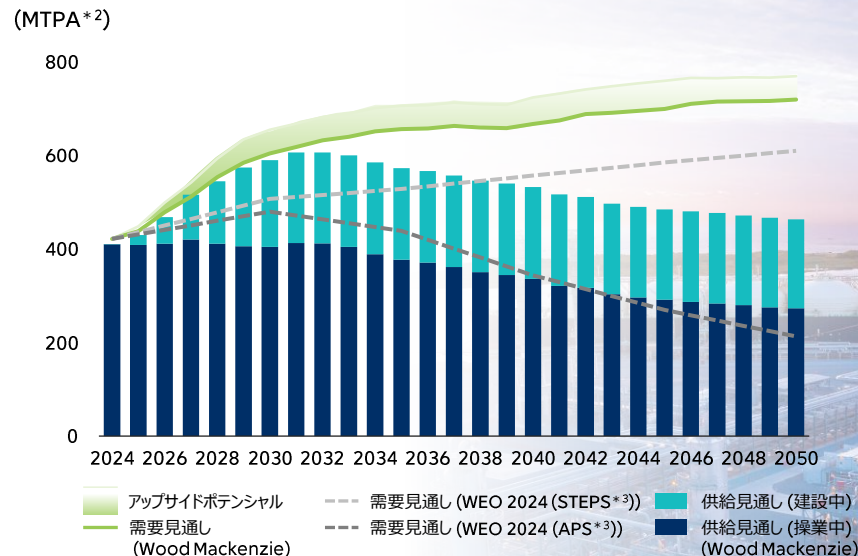
出典 S&P Global Commodity Insights

*¹MTOE (Million Tons of Oil Equivalent) : 石油換算数量 (百万トン単位) *²MTPA (Million Tons Per Annum) : 年間数量 (百万トン単位)

*³ 国際エネルギー機関 (IEA: International Energy Agency) が発行するWorld Energy Outlook

STEPS (Stated Policies Scenario) は、各国が表明済の政策を反映したシナリオ APS (Announced Pledges Scenario) は、パリ協定に沿い各国が宣言した野心を反映したシナリオ

【LNG中長期需給見通し】



地理的に分散された天然ガス・LNG事業ポートフォリオ

- ◆ 既存案件の競争力強化・拡張を通じた、アップサイド果実化と下方耐性の強化
- ◆ 開発案件の着実な立ち上げによる収益基盤強化

LNG事業

8カ国 11プロジェクト*

LNG当社持分生産能力

9百万トン規模/年*



* FID (最終投資決断) ベース

ガスバリューチェーンへの展がり

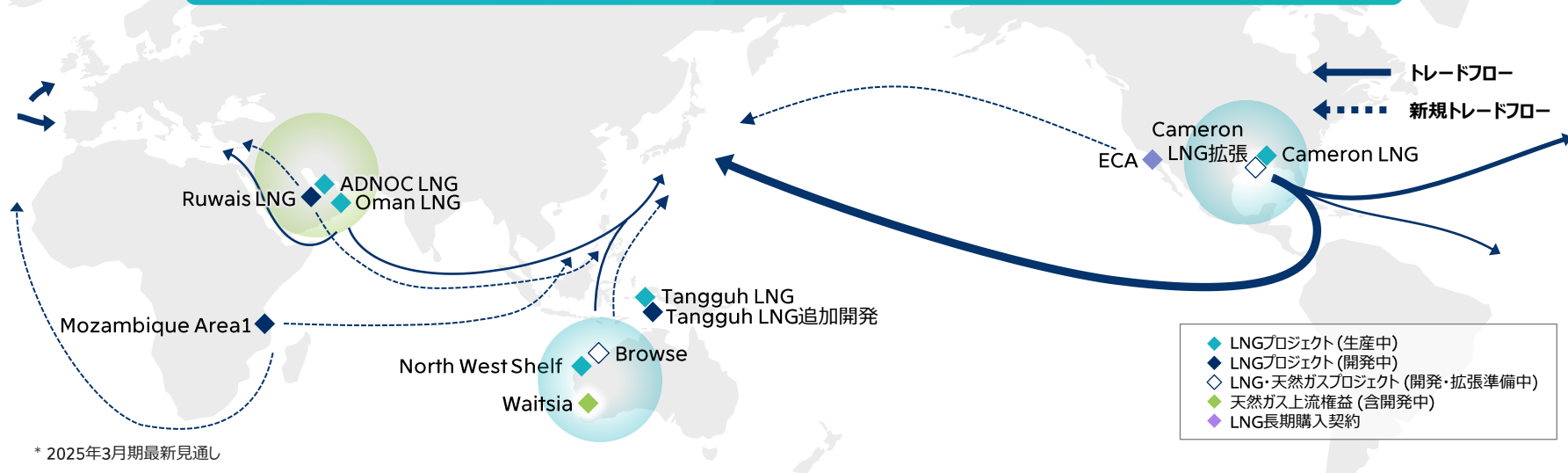
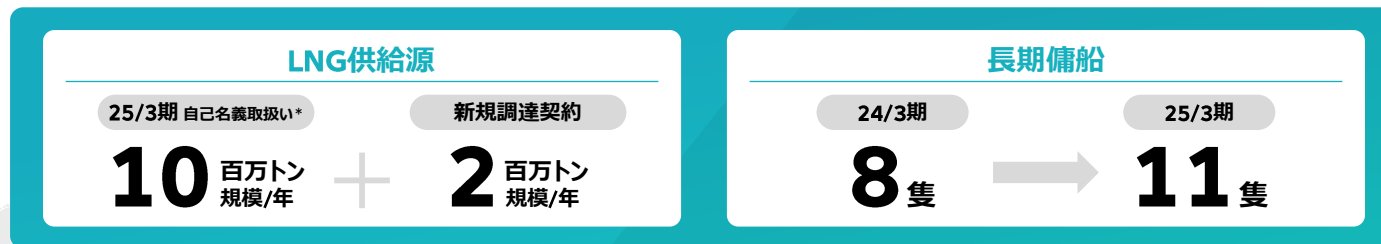
- ◆ 天然ガス上流権益、LNGプロジェクト権益、LNG購入契約などの多様な参画方法から、競争力あるガス・LNGを供給し発電することでエネルギー安定供給に貢献

【一気通貫した当社ガスバリューチェーン】



LNG物流ポートフォリオ

◆ 分散されたLNG供給源と保有船団拡充・運用最適化を通じ、安定した供給力と需給調整機能を発揮



Ruwais LNG事業

◆ LNG事業ポートフォリオと物流ポートフォリオ双方の積み増しを通じ、長期安定収益基盤を拡充



ADNOC・エネルギー世界大手との戦略的パートナーシップ

- ADNOC LNG参画・運営を通じて50年にわたり培ってきたADNOCとの**信頼関係**
- LNG・他事業を通じたbp・Shell・TotalEnergiesとの**強固なパートナーシップ**

プロジェクトへの貢献

- LNG事業運営知見の活用
- 安定的なLNG引取り
- LNG販売支援

エネルギーtransitionに沿った低炭素LNG事業

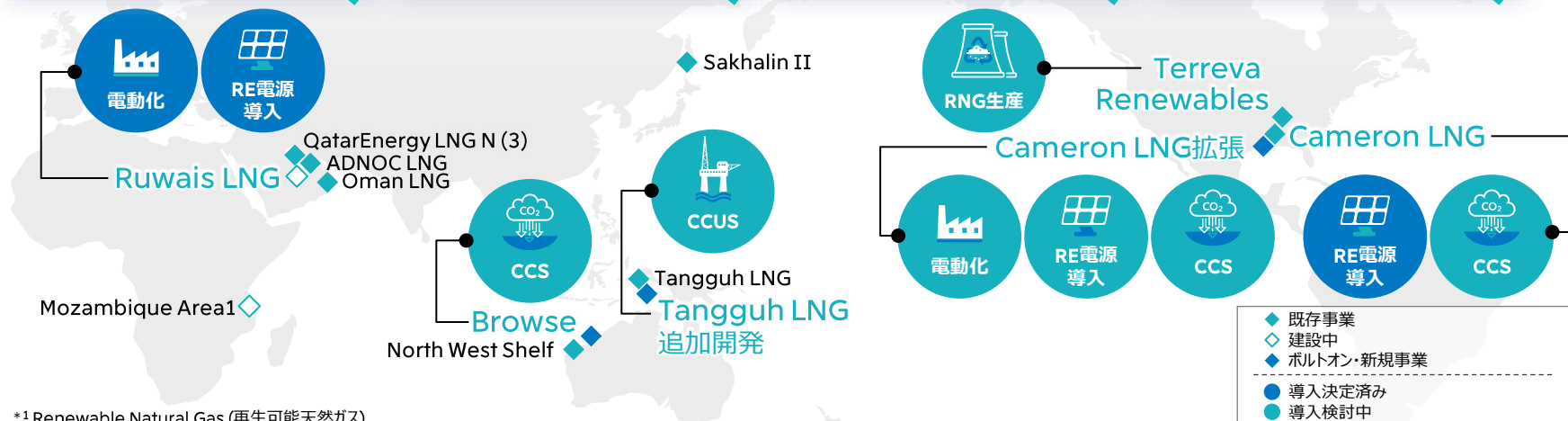
- E-Driveの採用、クリーン電力活用により**GHG対応策**を具備



LNG事業における低炭素施策

◆ 各プロジェクトの状況に応じたGHG対応策を具備することにより、持続的競争優位性の確保を狙う

【各工程におけるGHG対応策】

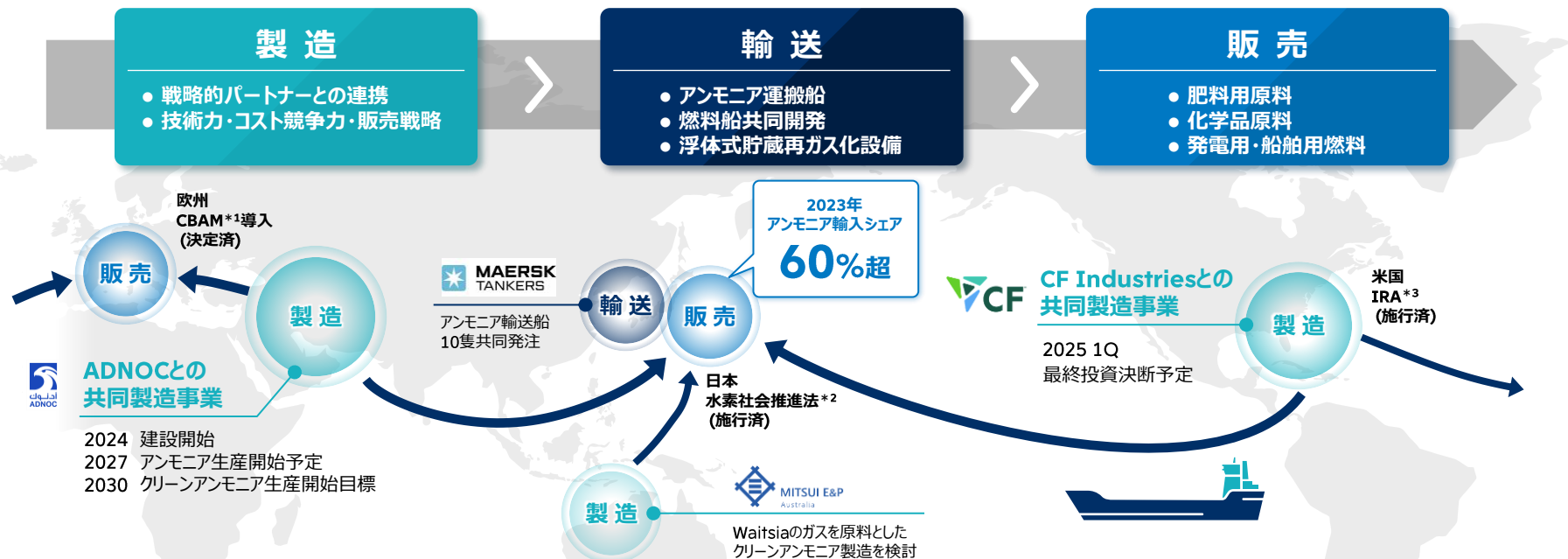


*¹ Renewable Natural Gas (再生可能天然ガス)

*² BOG: Boil Off Gas (LNGのような低温液体を輸送・貯蔵する場合に、貯蔵タンク外部からの自然入熱などにより気化するガス)

クリーンアンモニア バリューチェーンの構築

- ◆ アブダビADNOC、北米CF Industries 等、戦略的パートナーとの連携を通じた着実なプロジェクト進捗
- ◆ エネルギー、化学品、モビリティ本部間の産業横断的な実績・知見の融合



*1 炭素国境調整メカニズム (Carbon Border Adjustment Mechanism) *2 同法律に基づいた「価格差に着目した支援」、「拠点整備支援」

*3 インフレ抑制法 (Inflation Reduction Act) における気候変動関連投資への支援措置

CCS・CCUSの取組み

◆ CCSaaS事業のビジネスモデル構築に向け、グローバルに検討推進中

ターゲット

2035年までに年間**15** 百万トン*規模



* 当社持分ベース

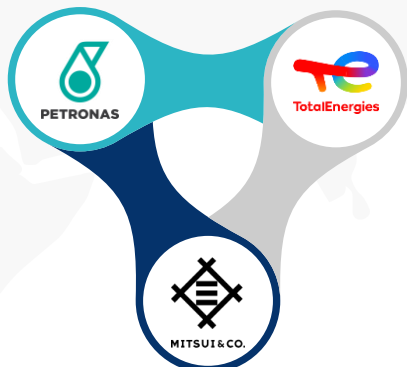
CCSaaS事業への取組み

◆ 貯留事業者として、産業界と連携しながら日本・マレーシアのCCSバリューチェーン構築

3社の事業パートナーで推進

マレーシア地質知見・
現地政府との関係

欧州での
CCS商業開発実績



顧客ネットワーク
日本政府との関係

西日本広域の複数産業から
CO₂を分離回収



マレー半島沖南部
CCSハブ

貯蔵量 **5百万トン/年**

- 本邦7社と共にJOGMEC支援事業として採択済
- 極東からの海上アクセスが良く、CCSハブの適地として期待
- 液化CO₂船の業界標準策定に取り組中
- スケールメリットを活かしたユニットコストの低減を狙う

- 分離回収の対象となるCO₂排出源
- 当社参画石油・ガス探鉱・開発事業(過去実績含む)

Global Energy Transition 将来見通し

- ◆ 天然ガス・LNGが当面の成長ドライバー
- ◆ 電動化シフト、次世代燃料、再エネ・電力トレーディング、カーボンマネジメントもそれぞれ成長見通し

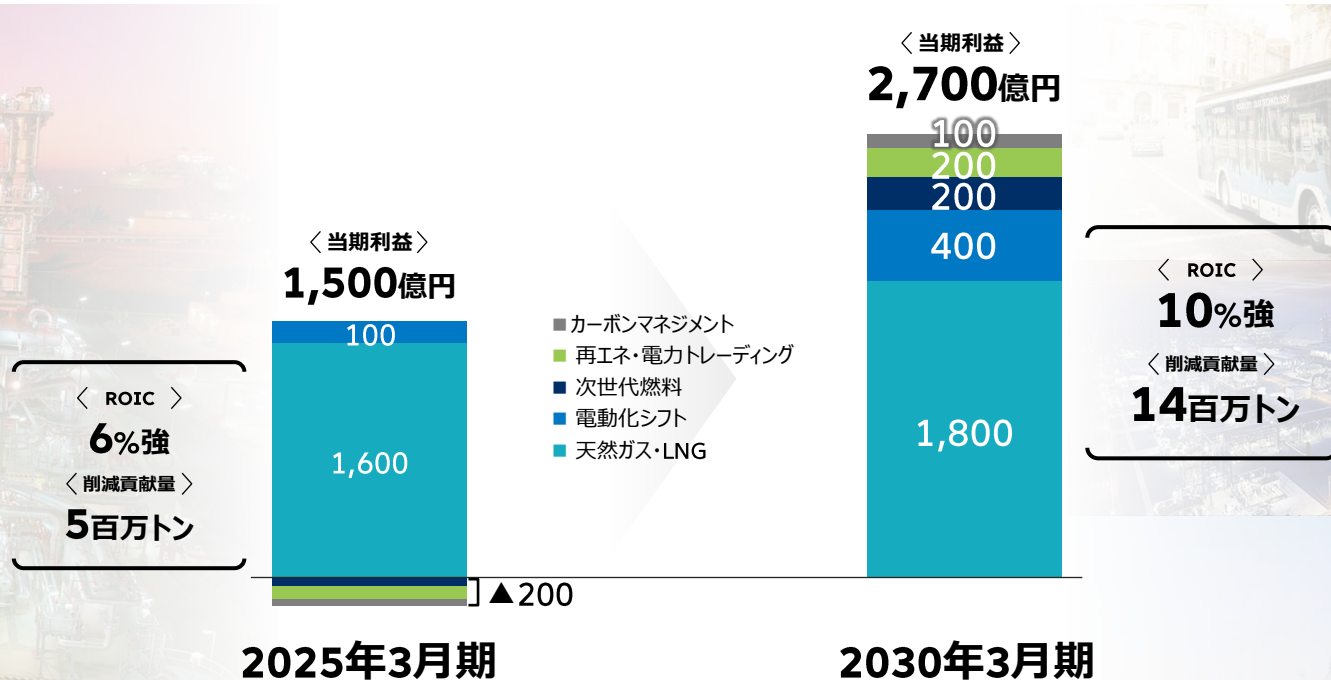


Image supplied by the North West Shelf Project

360° business innovation.



mitsui & co.